

春

生き物

つばき、蛙(かえる)、かわず、雀の子、蝶(ちまゆ)、じほめ(ひまわり)、つばくろ、蜂(はち)、雲雀(ひばり)、若鮎(わかあゆ)

植物

梅、木の芽、草の芽、桑(くわ)、桜、桜草、すみれ、すみれ草、たんぽぽ、土筆(ひんげ)、つばき、椿(つばき)、菜の花、花川桜、藤、芽吹く、桃の花、柳(やなぎ)、山吹(やまぶき)、よもぎ、若草

暖か、淡雪(あわゆき)、じゆんか、おぼろ月、陽炎(かげり)、かすみ、風光る、東風(こち)、残雪(残る雪)、菜種梅雨(なたねつゆ)、なだれ、のどか、花曇り、花冷え、春一番、春雨(はるさめ)、水温ぬるむ、山笑(やまわら)、雪解け、余寒(よかん)行事・生活など

朝寝(あさね)、遠足、卒業、田打ち、風(たこ)、種まき、茶(つみ)、つみ草、苗代(なわ)、しろ、入学試験、野焼き、畑(はた)打ち、八十八夜、花見、彼岸(ひがし)、桃の節句、ひな(ひな人形)、ひな祭り、麦踏み、山焼き

語意(五十音順) 朝遅くまで寝ていること。朝寝坊。 泡(あわ)のように軽くて溶(と)けやすい雪。 日光で熱せられた地面から炎のようにゆらゆら空気が立ち上る現象。

かすみ 遠方の景色が霧などでかすんで見える現象。 風光る 暖かな日差しを受けた若葉がそよ吹く風に吹かれて翻るたびに、きらきらと光るように見えるさま。また、そのようになさわやかな季節のたとえ。

東風 春の東寄りの風。春風。 雀の子 春に卵からかえったばかりのすすめのひな鳥。 田打ち 田植えに先立って、田の土をすき返す(掘り起す)こと。

菜種梅雨 菜の花の咲く頃に降り続く雨(すず)く天気。 苗代 稲の種子をまいて苗(発芽)して間もない植物を育てる水田。 八十八夜 立春(旧暦)月初旬から数えて八十八日目の日。新暦では五月一日か二日。種まきの適期とされる。語意は、八十八夜を最後として、以後は霜の被害はないといふこと。

花曇り 桜の花の咲くころ、空が薄く曇っていること。 春一番 立春を過ぎて、その年初めて吹く強い南風。 彼岸 春分の日(春の半ば)、秋分の日(前後三日)を含めた七日間。麦の根の張りを強くするために、麦を足で踏むこと。

山笑 春の芽吹き始めた華やかな山の感じ。笑う山ともいう。 余寒 立春のあとに残る寒さ。 若鮎 春に川をさかのぼる、若い元気な鮎(あゆ)。

秋

生き物

赤とんぼ、いなご、馬肥(うまひ)、かまきり、雁(かり)、啄木鳥(きつし)、きりぎりす、つばき、蛙(かえる)、鹿(しか)、鈴虫(すずむし)、しんぼ、つばき、つばき、つばき、つばき

植物

朝顔、いちじく、柿(かき)、菊、きのこ、桐一葉(きりひとば)、栗(くり)、鶏頭(けいとう)、すいか、すすき、つた、とんぼり、なで、野菊(のぎく)、萩(はぎ)、花畑(はなはたけ)、彼岸花(ひがしはな)、びじう、ほおずき、たけ、曼珠沙華(まんじゆしゃげ)、紅葉(もみぢ)、桃の実、りんご

気象・天文など 朝冷(あさひえ)、天の川、稲妻(いなずま)、いわし雲、霧(きり)、さわやか、残暑(ざんしゆ)、月、露(つゆ)、流れ星、野分のわざ、二台風、冷ややか、星月夜(ほしつきよ)、三日月(みかづき)、各月・明月、夜寒(よせむ)、夜長(よなが)、流星(りゅうせい) 行事・生活など

十六夜(いざよい)、稲刈り、運動会、案山子(かかし)、刈田(かりた)、障子(しよじ)、はり、十五夜(いづゆ)、相撲(すもう)、七夕(たなばた)、月見、二十日(にじふ)、まぼろし、墓参(はかまいり)、星祭(ほしまつり)、盆踊(ぼんおどり)、迎(むか)え火

語意(五十音順) 旧暦十六日の夜の月。「いざよい」は「ためらうこと」との意味で、満月(十五日)の翌晩は月の出がやや遅(おそ)くなり、「月がためらうようになかなか出ない」とことからこの名があら。

馬肥ぬる 秋になって、馬が肥(こ)えてたくましくなる。 桐一葉 桐(きり)の葉が一枚落ちるのを見て、秋の訪れを知ること。

十五夜 旧暦八月十五日の夜。満月の夜。古来、各月をめでて月見をする。また、旧暦十五日の夜。 障子はり 夏は暑いので障子を外しているが、秋となり朝夕寒くなるので障子の汚れや破れが気になり、きれいに張り替えること。

二百十日 立春(旧暦)月初旬から二十日目の日。新暦では九月一日前後。このころ(旧暦)八月から台風がよく来るので注意を喚起(かんき)する日。稲の開花期と重なるので、二十日(にじふ)はくわ(くわ)か(か)とも同(どう)言(ごん)わ(わ)れる。野分 野の草を吹き分ける風の意。二十日、二十日頃の台風のこと。または秋から冬にかけて吹く激しい風。「のわけ」とも言(ごん)わ(わ)る。

星月夜 星が輝いて月が出ているように明るい夜。 星祭り 七夕祭り。

夏

生き物

青(あお)がえる、雨(あめ)がえる、鮎(あゆ)、蟻(あみ)、うなぎ、かたつむり、かひし虫、金魚、金魚売り、黄金虫(こがねむし)、せみ、はえ、初鯉、ほたる、まじり、みみず、めだか

植物

青葉、紫陽花(あじさい)、あやめ、いちご、卵(う)の花、うり、早苗(さなえ)、菖蒲(しょうぶ)、新緑、たけのこ、なす、葉桜(はぎ)、万緑(ばんりく)、ひまわり、牡丹(ぼたん)、ゆり、若葉

気象・天文など 秋近(あきぢか)、暑(あつ)、風(かぜ)かおる(風薫る)、雷(かみなり)、雲(くも)の峰(みね)、薫風(かむかぜ)、五月(ごご)、五月雨(さみだれ)、涼風(すずかぜ)、涼しい、梅雨(めいゆ)、梅雨明け、虹(にじ)、西日(にしひ)、入梅(いりぼし)、日盛(ひさかき)、夕立(ゆずり)、夕なぎ、夕焼け

青田(あおた)、うちわ、扇(あふぎ)、川開(かわひらき)、帰省(きせい)、行水(きゆうすい)、金魚売り、草取り、こいのぼり、ころもがえ、田植え、端午(たんご)、端午の節句、登山(とやま)、土用波、花火、日傘(ひがさ)、風寝(かぜね)、風鈴(ふうりん)、吹き流し(こいのぼり)、短夜(みじかよ)、麦刈(むぎかり)、麦むぎの秋、麦秋(むぎあき)、ほくろ(虫干)、山開(やまひらき)、浴衣(ゆかた)

語意(五十音順) 風(かぜ)かおる 初夏の青々とした草木を渡って風がさわやかに吹くさま。 雲(くも)の峰(みね) 入道雲。 薫風(かむかぜ) 初夏に若葉の香りを運ぶ快風。 早苗(さなえ) 苗代(なわ)を育てる水田から田に植えかえるころの稲の苗。 五月雨(ごご) 発芽(はつげ)して間もない植物。

端午(の節句) 菖蒲(しょうぶ)やよもぎを軒(げん)に飾り、ちまきやかしわ餅(もち)を食(た)べ、鯉(こい)のぼりを立て人形(にんぎょう)を飾り、男子(おとこ)の成長(せいじやう)を祝(いわ)う。 土用波 立秋(りゅう)前の十八日(じゅうはち)間(かん)。暑(あつ)さがもっとも厳しい時期。 土用波 夏の土用の入り(7月20日頃)が過ぎた時分に、太平洋岸に現れる大波。南方(みなみ)洋上(ようじやう)の台風(たいふう)によるうねりが到達(とつたつ)したものの。花(はな)が散(ち)り若葉(わかしよ)が出(で)たころの桜(さくら)。

葉桜 花(はな)が散(ち)り若葉(わかしよ)が出(で)たころの桜(さくら)。 初鯉(はつり) 五月(ごご)ごろ、その年(とし)でいちばん早くとれるかつお。 万緑(ばんりく) あたり一面(いちめん)が草木(くさく)の緑(き)で覆(お)おわっていること。 短夜(みじかよ) 夏の短い夜。 麦の秋(むぎのあき) 麦(むぎ)が熟(じやく)し、刈(かり)り入れをする初夏(初夏)のころ。「秋」には「穀物(こくぶつ)の実(み)ること、実(み)り」の意(い)がある。

夕なぎ 夕方(ゆふた)、海(うみ)辺(べ)で風(かぜ)と夜の陸(りく)風(かぜ)とが交代(こうたい)するとき、しばらくの間(ま)風(かぜ)がやむこと。「朝(あ)なぎ」は朝(あ)ま、海(うみ)辺(べ)で夜の陸(りく)風(かぜ)と風(かぜ)の海(うみ)風(かぜ)が交代(こうたい)するときの一時的(いちじき)な無風(むかぜ)状態(じょうたい)。夏の季語(きご)。

冬

生き物

うさぎ、牡蠣(かき)、鴨(かも)、寒雀(かんすずめ)、鷹(たか)、千鳥(ちどり)、鶴(つる)、白鳥(しろとり)、ふくろう、水鳥(みづとり)、鷺(わらわ)

植物

落葉(らくえつ)、枯れ尾花(かれおぼな)、枯れ木、枯野(かれの)、枯葉(かれは)、寒椿(かむつばき)、たんぼき、さびんか、水仙(すいせん)、大根(だいこん)、大根引き、人參(にんじん)、ねぎ、白菜、みかん

気象・天文など 霞(あられ)、息白(いきしろ)、オリオン(座)、北風(きたかぜ)、水、木枯(こがらし)、小春(こはる)、小春(こはる)はる、小春(こはる)はる、小春日和(こはるびより)、寒(か)、時雨(しぐわ)、霜(しも)、霜(しも)柱(むら)、短日(たんじつ)、冷たい、つら、初雪(はつゆき)、山眠(やまね)、雪、流水(りゅうせい) 行事・生活など

大晦日(おおみそか)、重ね着、風邪(かぜ)、火事(かじ)、こたつ、七五三、障子(しよじ)、除夜(じよや)、師走(しよわ)、スキー、スケート、すずはら、炭(すす)、炭火(すす)、咳(せき)、節分(せつぶん)、たき火、竹馬、足袋(たび)、手袋(てぶくろ)、年の暮(としのくれ)、火鉢(ひばち)、麦(むぎ)、雪見(ゆきみ)

語意(五十音順) 枯れすずめ 寒中(かむちゆう)の寒(か)さの厳しい期間(きかん)のすずめ。 寒雀(かんすずめ) 寒中(かむちゆう)の寒(か)さの厳しい期間(きかん)に咲(さ)くツバキ。 小春(こはる) 晩秋(ばんしゅう)から初冬(しよとう)にかけて現(あら)われる、暖(あたた)かく穏(おだ)やかな晴天(せいてん)。

時雨 晩秋(ばんしゅう)から初冬(しよとう)にかけて降(ふ)ったりやんだりする雨。 障子 冬(ふゆ)は障子(しよじ)を閉(と)めて切(き)って風(かぜ)や寒(か)さを防(ま)ぐことから。元来(もと)は、障子(しよじ)さえぎるもの(の)意(い)で襖(ふすま)も含(こ)めて障子(しよじ)と呼(よ)んでた。扉(かど)を閉(と)じたまま探光(たんくわう)できる機能(きぬん)や防寒機(ぼんげんき)能(に)を併(ひ)せ持(も)つことにより、平安時代(へいあんじだい)に障子(しよじ)あかりし(ようじ)として襖(ふすま)から分離(ぶんり)し普及(ふく)した。

除夜 大晦日(おおみそか)の夜。 師走 十二月(じふにがつ)の古称(こせう)。 節分 立春(りっしゆ)の前(まへ)日(ひ)、鬼(おに)払いの豆(ま)まきなどをする。暦(こよみ)のこえではこの日(ひ)までかき、翌日(あした)の立春(りっしゆ)からが春(はる)になる。

山眠 冬(ふゆ)の山(やま)がひっそりとしていて、深い眠(ね)りに入るように見える姿(すがた)をいふ。眠(ね)る山(やま)ともいふ。 流水 冬(ふゆ)の山(やま)がひっそりとしていて、深い眠(ね)りに入るように見える姿(すがた)をいふ。眠(ね)る山(やま)ともいふ。 海上(かいじやう)を漂(た)だめ(め)っているもの。

流氷 冬(ふゆ)の山(やま)がひっそりとしていて、深い眠(ね)りに入るように見える姿(すがた)をいふ。眠(ね)る山(やま)ともいふ。 海上(かいじやう)を漂(た)だめ(め)っているもの。